

細腕なんて言わせない!!

251



「誕生して間もないものですが、毎日、努めています。作品はとてもきれいですし、皆さんから笑顔が出るんですよ」と、語る馬籠さん

きれいですし、笑顔も出ます

「リピーターも増えて」と話す

馬籠^{まごめ} 洋子^{ようこ}さん

■花とバルーンの店「アムルーズ」経営
■いわき市鹿島町久保二丁目八ノ五

電話／〇二四六一五八七三三五

社会には自然のそれらをはじめ、人が知恵を絞って作り上げた「芸術」も限らない。そして、それらの中には、美しさを中心としているものもあれば、心に訴える感動的な作品も少なくない。

ある日、何げなく開いた雑誌の「ページの美に魅（ひ）かれ、以来十六年余、誕生して間もない、市内でも珍しい「バルーンアート」の世界に没頭しているのが、馬籠洋子さん（三九）。

「バルーンアート」は、ゴム風船をいくつもつないで、さまざまな造成品をつくる「芸術」のこと。ヘリウムガスを用い、膨らませての花、人形、ウサギなどの小動物類、さまざまなキャラクター。また、膨らませず風船のデザインを利用してのカラフルなドレスなども人気商品の一つ。ギフト関連、あるいはプレゼント、さらには結婚式場などのアートの一部としてよく利用されている。

「高校の建築科を卒業後、家業が建築業だったので、図面を引いたりしていたんです。将来は『花』に関しての仕事を考えていたところ、ある雑誌に載って



ギフト用で人気呼ぶ “バルーンアート”

たバルーンアートを知り、泊まりがけで東京のセミナーを受講し、学んだことがこの道へ進むきっかけでした」
馬籠さん、二十三歳の時だった。
こうして学んで技術を習得してきたものの、まだまだ社会での認知度は低かったため、自作を知り合いの生花店などに展示してもらい、PRに腐心。地道に努めていた彼女、結婚後は、自宅の一室をアトリエにして精進を重ね、平成十七年三月、正式に開業。「一時は、日立から相馬方面までの結婚式場から声がかかっていました」と、にっこり。

「夫と子どもには感謝」

努力も奏功し、七人のスタッフを抱えるまでになったが、三年前の震災では大きな被害を受けた。三月の月は卒業、入進学、異動などで社会が最も動く時期のため、制作に使う生花なども仕入れていたが、折あしく震災と重なり、「室内はもう手が付けられないほど荒れてしまったんですよ」。
だが、奮起。昨年十二月、自宅そばの現在地に店舗を構え、今は、三人のスタッフとともに作品作りに励む。
作品はサイズもデザインもさまざまだが、制作時間は、十分、二十分というのあれば、オリジナルの大きなものになれば、一カ月ぐらい費やすことも。人気があるのは、子どもの誕生日用の「おむ



つケーキ」と、ベットの関連のギフト。
作品の値段は、三千〜五千円クラスが最も多く、「もうかりませんよ」と笑いながら語る馬籠さんは「素材にもよりますが、一年ぐらいは持ちますよ。穴

が開いてなければ、再利用も可能ですよ」と話し、最近はやりपीターも多くなってきたという。

「カラフル、きれいで室内も明るくなりますし、笑顔が出ます」と、このアートの魅力を強調する馬籠さんは、「走ってきたため、夫や子どもには迷惑ばかりかけて…。いつも感謝です」と、目を細くして語りながら、「私の周りのことですが、震災前は自己中心でしたが、以後は、周囲に目を向けてくれる人が多くなりましたね」と、自身が感じる現今の社会風潮も柔らかく話していた。

プロフィール

まごめ・ようこ

1975年7月6日生まれ。平出身。「マニュアルがないオリジナルの作品でも、注文に応じられるように努めます」と語りつつ、「家族にはまだまだ恩返しをし切れていません」と、きっぱり。夫の尊志さん(45)との間に「中学生から保育園まで」の2男2女。定休日の火曜日は、「家事に専念なんです」。得意な料理は、「カレーライス」。血液型はO型

■お知らせ=このコーナーでは、自ら選んだ仕事に、あるいはその人生においてひた向きに励み、努めている女性を紹介しています。情報をお寄せください。

石橋忠三郎ガラス展

■会期/平成26年8月28日(木)~9月8日(月)
午前10時~午後6時(最終日は午後5時閉場)



アリア

石橋先生は、1970年代に英国スターブリッジ美術大学でガラスを学び、その後も国内だけでなく国際的に活動を広げてこられました。

吹きガラス技法を駆使した華麗で多彩なガラス作品をご高覧ください。

襲名記念 六代 上田直方茶陶展

会期/平成26年9月18日(木)~9月23日(火)
午前10時~午後6時(最終日は午後5時閉場)



信楽矢筈口水指

これまで5人の陶人が直方を名乗り、それぞれの時代に苦心しながら作り、祈りながら窯を焚いてきました。そして、6人目の直方を名乗ることになり、祈る気持ちで土や炎と向き合っています。

まだまだ未熟ですが、志を高くして、茶陶信楽としての道を、一步一步前進したいと思っております。皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。 信楽古楽窯 六代 上田直方

小野美術



いわき市平字中町22番地の2 Kビル1F

☎0246-35-0383

HP: <http://onobijutsu.jp> e-mail: onobijutsu@sirius.ocn.ne.jp